

(様式第4号)

第5回上田中央地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	令和3年9月28日 午後1時30分から午後4時00分まで
3 会場	上田市役所本庁舎4階庁議室(視察)、同 連結棟202・203会議室(報告・協議)
4 出席者	天田委員、伊藤委員、大井委員、金井委員、小林みゆき委員、小林芳夫委員、田中委員、谷藤委員、成澤委員、半田委員、平澤委員、増澤委員、町田委員、丸山委員、望月委員、山浦委員、山田委員、山寺委員
5 市側出席者	【危機管理防災課】山田危機管理防災課長、星野危機管理防災担当係長、大林危機管理防災担当係長、金井危機管理防災担当係長、土屋危機管理防災担当主任 【事務局】小泉中央地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年10月1日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 視察《総合防災情報システムについて》

(Aグループ)

危機管理防災課からの説明

以下、質疑応答

(委員) このポータルサイトは、上田市のホームページに載っているのか。

(危機管理防災課) 上田市のホームページとは別サイトという扱いにはなるが、上田市のホームページからリンクで移行できるようになっている。

(委員) ポータルサイトを知らない人への対応はどう考えているのか。

(危機管理防災課) 立ち上げたばかりで認知度も低いと思うので、啓発等は日々の業務の中で行っていく。実際に災害があった時のメール配信の文面にポータルサイトの URL を載せて、確認してもらうようにする予定である。

(危機管理防災課) ポータルサイトは災害時に情報収集が瞬時にできるという点もあるが、一番はそれを使っていち早く正確な情報を伝達できるということが大きなメリットである。市のホームページにはさまざまな情報があるので、アクセスが集中するとつながりにくいという面を含めると、サイトを別で新たに立ち上げて、防災に特化して集中的にその情報を確認できるという大きなメリットがある。サイトを立ち上げたばかりの段階のため、パソコン・スマートフォンを持っている方に限ってしまうという部分はあるが、近所や地域の方にも周知してほしい。

(委員) ポータルサイトは、こちらから発信することはできないのか。

(危機管理防災課)市からの情報を見ていただくものになるので、できない。

(委員)必要な情報の取得については、若い人はほぼこのサイトで対応できるということか。

(危機管理防災課)ある程度スマートフォン等の操作に慣れている方は、このサイトで対応できると考えている。しかし、スマートフォンの操作に慣れていないと操作ができない部分が含まれているので、この部分はわかりやすく改善するように対応をしているところである。できるだけ幅広く、より多くの市民の方々に使いやすいようなものにしていきたい。

(Bグループ)

危機管理防災課からの説明

以下、質疑応答

(委員)情報収集の手段で SNS があるかと思うが、たとえば市民がツイッター等でつぶやく際にハッシュタグをつけてもらい、情報提供の呼びかけ、働きかけをする予定はあるか。

また、説明の中でイメージがつきにくかったものが避難所の開設状況とか通行止めの状況である。例えば染屋のグリーンベルトで災害による被害が発生した、道が通行止めになっている、中央公民館が開設されているといった順序立てたシミュレーションのような機能はあるのか。

(危機管理防災課)SNS の情報取得に関しては SNS やツイッターで挙がってきた情報を、依頼している会社で自動的に情報を収集して吸い上げるというものになる。ハッシュタグで情報提供の呼びかけをして情報収集を募るところまでは検討していなかった。状況次第では有効な手段かと思うので、こういった条件で SNS 情報を吸い上げることができるのか、また提案いただいたようなことが可能かを、必要に応じて対応できるように確認したい。

二点目のシミュレーションというと、たとえば市で職員が訓練をする時に、そのような条件を出して行うといったイメージでよいか。

(委員)避難所の開設状況によりアイコンの色が変わるという話だったが、今日のこの説明でも色が変わっている状態のものを見ることができれば、もっとイメージしやすかった。

現時点で一般向けのシミュレーションができるような仕組みがないのであれば、紙媒体で構わないので提供していただきたい。それを使用して図上訓練してくださいというような形ができればよいと感じた。

(危機管理防災課)わかりました。今のところポータルサイトは公開用のサイトだけとなっている。サブサイトがあって、そこでシミュレーションの情報を出せばよかったのだが、今のところシステム上では難しいので、いただいた意見のとおり実際に出ている情報の絵などを用意するなどして、もう少しわかりやすくご案内できるように改善していきたい。

(委員)令和元年東日本台風時に指定緊急避難場所へ向かう途中の道が渋滞していて、行くことができなかったという人がたくさんいた。この道は渋滞している等、迂回表示をすることはできないのか。

(危機管理防災課)そこまでの機能は持っていない。

(委員) スマートフォン等を利用して情報が取れる人にとっては非常に便利だと思うが、それは全ての人ではない。使えない人にはこの情報量をどう伝えればよいのか。その運用をどうするのか。

(危機管理防災課) 一番は、行動をしなくてはいけないのか、待機でよいのかということが避難の判断の基準点だとすると、行動をしなければならないという情報が、すぐに入ったとすれば、これは地域の方々へのお願いで、これまでと同じように情報を伝達していただく等、自主防災組織の活動の中で伝達方式を組み立てていると思うので、そういうところにつながっていただく。そういったところは従来の伝達方法を活用していかなければならない。それには地域の方々がこういったシステム・仕組みを知りながら、従来の自助・共助そういったもので伝達することも同時に行っていただく必要がある。新しい、即時に伝達できる仕組みを一つ付け加えたようなイメージである。

(委員) このサイトの情報は全部日本語だと思うが、外国人にはどのように伝えるのか。

(危機管理防災課) 多言語で変換できるものについて、ハザードマップは四か国語で用意した。このサイトの機能自体では変換ができない。動き始めたばかりの中でこういった対応をしていけるか、一つの課題である。

(委員) スマートフォン等が使えない人に、どこの指定緊急避難場所に避難するよう伝えることになるが、定員がいっぱい等で避難できなくては困る。そういった時の定員や条件等は自治会・自主防災組織には知らされるのか。

(危機管理防災課) 今までは、そういう情報を自治会の横のつながりで流していただいた。このサイトで新しく確認ができるとすると、地図上に避難所のマークが出るのだが、例えば緑だと開設されている、黄色だと定員に達しているということを確認できる。そこで一つ伝えていただく手段が増えたことになる。

(委員) 7、8月に熱海市や岡谷市で土砂災害があり亡くなった方もいた。事前に気象庁からはかなりの雨量で危険が迫っているという情報を自治体にも出していたが、自治体から住民への情報提供が遅れてしまい、被害が大きくなったということメディアを見た。このシステムがあることによって、自治体が適切なタイミングでの確かな情報提供をするという、その辺が穴埋めできるということか。

(危機管理防災課) 見落としを無くす、迅速性を高めることができると考えている。

(委員) このシステムによって細分化された情報が個人のスマートフォンに入ってくると理解してよいか。

(危機管理防災課長) 今までの情報は、どちらかというと文字で見えてお知らせで聞くというものだったが、画面上で見ることによって、視覚的にいろいろな認識ができ、判断がしやすくなっている。イメージを現状の地図で見ると、ここまで危険が迫っていると認識ができる。細分化というよりも、イメージを付けやすくなるというのがメリットである。

(危機管理防災課) 上田市のメール配信等で、丸子地域や武石地域に住んでいる方でも真田地域で何か起きた時にメールが届くという状況は今までと変わらず、登録している方には市内の情報は全部届く。今後はこの

サイト URL を載せてメール配信する予定だが、メールからこのシステムに入って、この地図を使って実際にここに避難情報が出ているのかを見ていただくと、地図で確認できる。細分化というよりは、メール配信されてきた情報を、より詳しく見るができるというイメージである。

3 会議事項

(1) 上田地域における地域協議会の設置単位の見直しについて

事務局から説明

(2) 上田中央地域協議会からの防災に関する提言について

(Aグループ)

事務局から資料を基に説明

以下、委員による意見交換

(委員) テーマに高齢者という共通点があるため、各分科会の内容に重複しているところがある。一本にするか二本にするか考える必要があるが、重複しているものは簡単に提言できるような形にした方がよいのではないか。

(会長) 1月20日に意見書を提出し、3月の地域協議会で市から回答をしてもらいたいと考えている。意見書を出すだけで、回答がどうなるかわからないということがないようにしたい。

(委員) どこに避難してよいかわからない、避難所が開設されていなかったという話が出たが、自治会に入っていない人でもポータルサイトがあれば避難所の情報がわかるので、これについては提言しなくてもよいのではないか。

(委員) ポータルサイトが完成したということで、それを周知してそれぞれがしっかりと知る必要がある。そこに課題があるように感じる。基本的にはスマートフォンが中心になると思うが、現状は自治会・自治会長の多くは使いこなせていないため、使い方の勉強会が必要ではないか。これからスマートフォンの時代となり、その中で使いこなせていなければ取り残されてしまうので、使い方の勉強会を行うことで課題中の解決策になる。

文書等をどうしたらよいか。それに時間をかけて、本来の市・市長に対してのアピールの焦点がずれてしまうことが今までもあった。そこに拘らないとしたら、第一分科会は現状の自主防災組織、高齢者・外国籍市民であればそれに対する問題点が既に出ている。その問題点を解決するためにはどんなことをしたらよいか。三段階という形がわかりやすいのではないか。

(委員) 市、自治会、まちづくり協議会と組織があるが、それぞれのテーマに対しどこが主体的に動くのか。そこに視点をあてて具体的な提言できればよいのではと考えている。

(委員) 提言に対する回答の検証をしないので、具体的に市の回答が見えてこないのが実情である。そのためピンポイントの提言をしていかないといけない。

第二分科会で提言したいのは、民間施設やホテルなどを避難所として活用をしてもらいたいということ。例えば、南部地区なら南部地区のホテル名を指定して、ルートインと東急インについては交渉中ということ

るまで回答を得る。具体的に言うと、市は各自治会の担当者にホテルなど避難できる場所があるか確認し、あれば交渉しているか等を聞き、それを報告した後、市から断りを入れてもらう。自治会だけが交渉するのではなく、市にも介入してもらう。

(委員)ほとんどの自治会に自主防災組織があるが、実際には動いていない。自主防災組織を作っても、年に一度の市のリーダー研修会に出て、それで終わってしまうところが多い。そこをどうすれば、災害時に被害を少なくできるか。そこを話し合わないといけない。

行政がもっと市民に対して働きかける必要がある。自治会または市民、自治会に入っていない方や外国籍の方もそうだが、自治会員だけでなく全市民の意識も高めないといけない。

(委員)市がやることは100人単位、1,000人単位を助けること。私たち自治会や個人がやることは、一人ひとりを助けること。ポジションごとに役割を明確にすることが大切である。そのため自主防災組織を活用するよう周知してほしい。

(委員)分科会を三つに分けて問題点を洗い出してきたが、最終のまとめというのは、一つにしてよいのではないか。三つの分科会が、防災という共通の問題についてどのように研究し、その中でどこを変えていくか等をまとめられたらよい。全体の分科会としてもう一度市の防災を考えた時に、何が必要なのか意見を出し合いながらまとめていったらよいのではないか。

(委員)発表のやり方を、まず一つにまとめてということで、自助・共助・公助の連携が基本である。そこに自治会があって、自主防災組織があって、住民自治組織という形で動いている。動いている中でいくつかの課題があり、市民の意識を高めることが一番大事というところから入って、それから具体的な部分をいくつか出して提言するのが一番わかりやすく、よいのではないか。

(Bグループ)

事務局から資料を基に説明

以下、委員による意見交換

(委員)資料中に自治会アンケートがある。2019年12月に自治会にアンケートを取ろうということになったが、まだ出てきておらず、集計ができていないという話だった。各自治会はどうだったのか等いろいろな意見が書かれていると思うが、その辺のこともあやふやなまま、ここまで来てしまっている。どのような内容だったのか危機管理防災課に一度確認をしていただきたい。

(事務局)担当課へ話を繋げます。

意見書について、分科会ごとに分けるのか一つにまとめて出すのか、どちらにするか決める必要がある。

(委員)共通していて、重複していることも多いので一本にしてはどうか。

(委員)表書きは一本でもよいが、視点がそれぞれ違うから、中身は第一・第二・第三と項目別に分かれていた方がわかりやすい。

(副会長)着地がわからないので、各分科会で内容をまとめてあるが、これを見ると重複しているところも多いように感じるので、一本にしてもよいのではないか。

(委員)表紙と取りまとめた要旨については一本がよいのではないか。

(委員)全体のテーマは防災ということなので、意見書としては一つにして、その中で三つに分かれるのがよい。

(委員)同じ内容に見えるが、話し合う答えは分科会ごと少し違ってくるのではないかと。一つにしてしまうと、話し合ってきたことの答えが隠れてしまうのではないかと。

4 閉会

次回日程

10月25日(月)午後1時30分

於)中央公民館 2階 第1・2・3会議室